

定置網漁業におけるクロマグロの保護

我が国周辺のクロマグロは絶滅が危惧されており、国際合意に基づく厳しい漁獲量制限が京都府にも設定されています。しかし、京都府ではクロマグロは主に定置網で他の多くの魚種とともに漁獲されるため、クロマグロの漁獲だけを制限することは困難であり、休漁を強いられる漁場もありました。そこで当センターでは、定置網に入った魚の中から、クロマグロだけを分離して逃がせるようなデバイス（のれん網）の開発に取り組んでいます。のれん網を定置網の魚捕部（漁獲作業が行われる部位）の手前に設置（写真1）することにより、クロマグロの進入を防ぎながら、他の魚種はのれん網の横や下を通過させて漁獲可能となることを期待しています。

令和2年1月に試験漁場である伊根地区において、のれん網の効果試験を実施したところ、クロマグロの大部分の漁獲を防ぐとともに、他の魚種を魚捕部へと誘導し（写真2）、漁獲することに成功しました。今後、さらに試験を積み重ね、のれん網の完成度を高めることにより、クロマグロの保護及び持続的な定置網漁業に貢献したいと考えています。

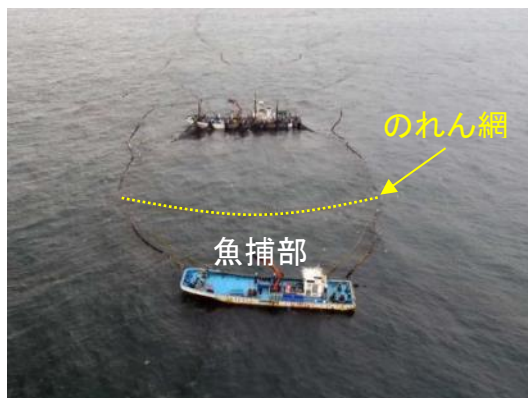


写真1 のれん網を設置した定置網での
操業風景



写真2 のれん網の横を通過し、魚捕部
へ導かれるスズキの群れ